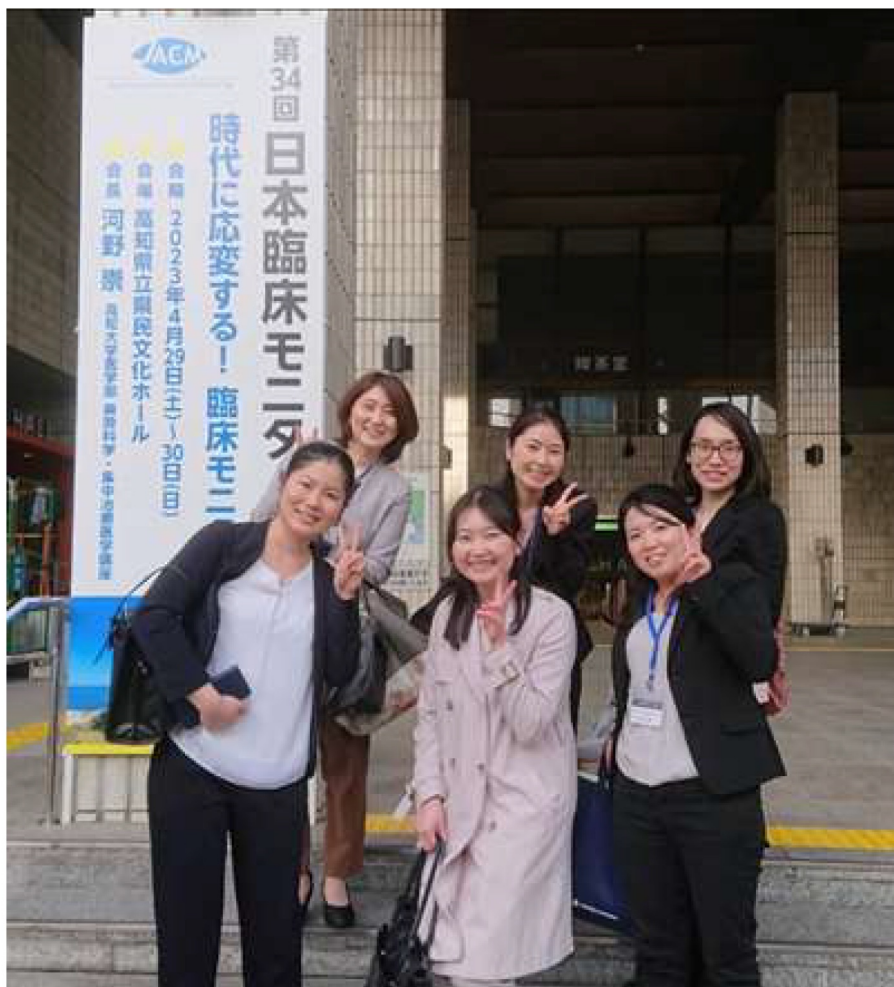




第34回日本臨床モニター学会ウェルカムパーティー：
「鰹のわら焼きタタキ」の実演



第34回日本臨床モニター学会スピーカーズナイト：
得月楼にて



第34回日本臨床モニター学会会場前にて：
高知県民文化ホール



第34回日本臨床モニター学会ウェルカムパーティー：
三翠園・桜の間にて ③



第34回日本臨床モニター学会閉会式後：
関係者集合写真



第34回日本臨床モニター学会ウェルカムパーティー：
土佐酒の試飲コーナー



第34回日本臨床モニター学会ウェルカムパーティー：
三翠園・桜の間にて ②



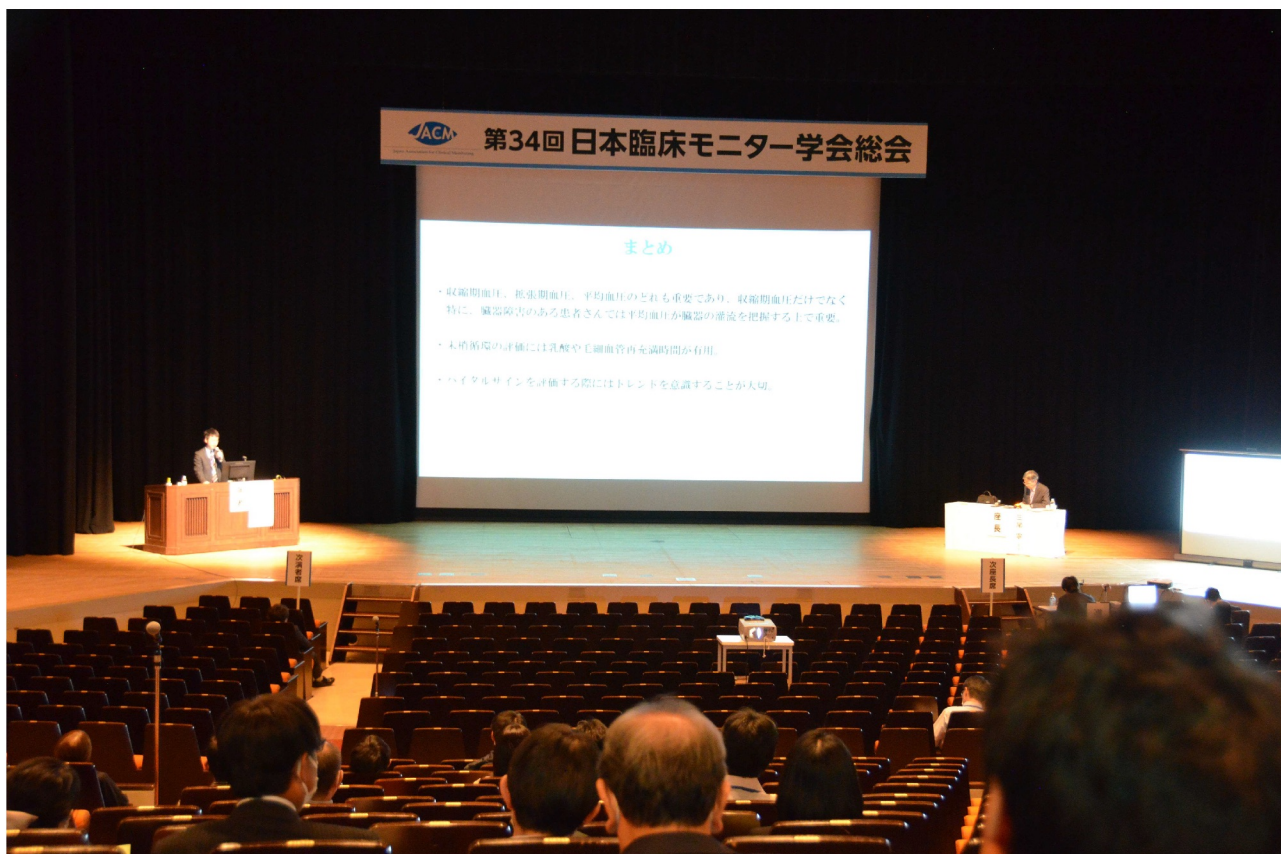
第34回日本臨床モニター学会ウェルカムパーティー：
三翠園・桜の間にて ①



メタバース体験



ハンズオンセミナー



第一会場・オレンジホール



第三会場・一般演題発表



高知大学麻酔科学教室同門会誌

「第 34 回日本臨床モニター学会総会報告」

高知大学麻酔科学集中治療医学講座 勝又 祥文

令和 5 年 4 月 29 日から 30 日にわたり、高知県立県民文化ホールにおきまして「第 34 回日本臨床モニター学会総会」をわれわれの教室で主催させていただきました。コロナ感染症の影響でオンライン形式による開催も検討いたしましたが、感染者数減少等をうけ、念願の現地開催が可能となり、直接皆様との意見交換、および懇親を広く深める場とすることができました。一般演題数は 54、総演題数は 100 を超える多くの演題を頂戴し、学会初日は一時雨天にも見舞われましたが、会期中、例年を大幅に超える 561 人というたくさんの参加者に北は北海道、南は沖縄まで多くの県からお越しいただくことができ、大変盛会となりました。同門の皆様には多大なご支援を賜り、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて日本臨床モニター学会は 1990 年に発足し、実臨床におけるモニターの開発および利用の発展を目指すことを趣旨とする会です。特に最近では「周術期管理における臨床モニター」として、私たち麻酔科医や集中治療医、救急医、歯科医師による議論が活発に行われてきました。さらに、その議論はモニターを使用する医師や歯科医師だけにとどまらず、チーム医療の一員となるコメディカルにも広がっております。実際に今回の学会でも、医師・歯科医師対象セッションの他に、看護師や薬剤師、臨床工学技士を対象とした特別講演や教育講演も多数企画し、積極的な議論が多職種でなされました。自身も担当させていただいた「集中治療症候群をモニタリングする」では理学療法士や栄養士からも、集中治療患者への新たなモニタリング方法についての意見をいただくこともできました。このような多職種での「臨床モニター」に対する深い理解と知識の共有が、医療をより安全かつ効果的なものにするため、本学会は非常に有意義な意見交換の場となったと確信しております。

また、今回の学会テーマは「時代に应变する臨床モニター」でした。外科手術は開腹手術から腹腔鏡手術を経て今やロボット手術が増えてきています。周術期管理では、技術革新の進展により様々な循環・呼吸・麻酔深度・筋弛緩モニタリングなどの開発・発展があり、手術室・集中治療室の設備も数年前と比べて様変わりしています。くわえて、人工知能 (AI) の活用は、今後さらに医療に大きな変化をもたらすことが予想されます。河野大会長のお言葉を拝借すると、そのような技術革新を遂げる「臨床モニター」を、使用する立場が正しく取捨選択し最大限に有効活用する力も不可欠です。本会では「AI で医療はこう変わっていく」や「医療における仮想現実 (VR) 活用の可能性と実際」といった、最先端技術を医療に駆使した講演を企画することで、時代変化に应变するための臨床モニターの在り方について皆様と考える素晴らしい機会とすることができました。スマートフォンすら使いこなせない私にとっては、「最先端技術と医療」は耳が痛いテーマでしたが、今回の講演は苦手意識よりも強い興味が先行する内容で、実臨床や研究に応用できればと考えております。

「在宅医療」や「遠隔 ICU」といった高齢先進県であるとともに、医療圏の地理的な問題

も抱える高知県で議論することが相応しい講演も、それぞれの分野で御高名な先生方にお話を頂戴することができました。講演には、集中治療や救急領域に従事するスタッフだけでなく、地域医療や在宅医療の分野で現在ご活躍されている医師やそのスタッフの皆様にも多く参加していただくことができました。在宅医療の充実や、限られた人的資源の有効利用に様々な最新のモニタリング技術を用いることの重要性を知ることができましたが、それを高知県で実行することで、世界のロールモデルとなることが期待されますし、われわれの講座もその一助を担えるように取り組んでまいります。

その他にもたくさん素晴らしい演題があり、多くの反響をいただいております。このような今回の成功は、高知県ならびに全国でご活躍されている同門の先生方を含め、All-Kochiの麻酔・集中治療・救急関係の皆様のご協力によってなし得たものだと強く感じております。また、本学会を開催させていただいたことが、同門の絆や高知県医療協力体制の更なる向上につながっていけばと思います。最後になりますが、第34回日本臨床モニター学会総会の主催にあたり、河野先生を先頭に教室員が一丸となって準備・運営に取り組みました。私たちにとっては何事にも代え難い非常に良い経験となりましたが、皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。今後とも、高知県の医療の発展に教室員一同精進していきたいと思っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。